

| | | | | | | | |
|---|--|-----|------|---------|--|-------|-----------------------|
| 授業科目(ナンバリング) | スポーツ運動学 (CC210) | | | 担当教員 | 神野 周太郎 | | |
| 展開方法 | 講義 | 単位数 | 2 単位 | 開講年次・時期 | 2 年・後期 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業のねらい | | | | | | | アクティブ ラーニング の類型 |
| 自然科学的な運動理論だけではなく、人間学的な運動学を取り上げ、実際のスポーツ指導現場における運動指導の基礎となる実践的運動理論を身につける。具体的には、スポーツ運動学の考え方、研究対象を理解した上で、スポーツ運動の課題分析、局面分析、内感を踏まえた指導法の立案が行えるようになることである。 | | | | | | | ⑫ |
| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | | | | 評価手段・方法 | | 評価比率 |
| 専門力 | <ul style="list-style-type: none"> スポーツ運動学の考え方、研究対象、研究方法を説明することができる。 運動学的な観点から、局面分析、内観分析、指導法の立案を行える。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 授業内小レポート レポート 定期試験 | | 10% 30% 30% |
| 情報収集、分析力 | <ul style="list-style-type: none"> 運動課題に基づいた運動観察と他者伝達が行える。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> レポート プレゼンテーション | | 20% 10% |
| コミュニケーション力 | | | | | | | |
| 協働・課題解決力 | | | | | | | |
| 多様性理解力 | | | | | | | |
| 出席 | | | | | 受験要件 | | |
| 合計 | | | | | 100% | | |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 授業内小レポート：授業毎に小レポートを課し、授業内容の理解及び授業内容に対する思考について評価する（評価基準 40%） レポート課題分析、局面分析、内観を踏まえた指導法の立案についてレポート課題を課し評価する（評価基準 50%） プレゼンテーション：それぞれ期末に行うテストでは講義内容についての基礎的な知識の理解及び自身の思考、発想について評価する（評価基準 60%） 定期試験：期末に行うテストでは講義内容に基づいての基礎的な知識の理解及び各種スポーツ運動の理解について評価する（評価基準 30%） また、レポート、小テストなどのフィードバックを授業で行う。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | |
| 講義を中心として授業を行う。局面分析、運動主体の感覚、指導法立案については、器械体操の運動をもとに講義を行う。スポーツ運動の課題分析、局面分析 2、運動主体の感覚 2、指導法立案 2 は、受講者個別のスポーツ種目に対応したテーマを設定し、講義をすすめる。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分とする。 | | | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | | | |
| 教科書：なし 参考書：『マイネルスポーツ運動学』クルト・マイネル 著. 金子 明友 訳. 1981 指定図書：『スポーツ運動学入門』ウルリヒ・ゲーナー 著. 佐野 淳 他 訳. 2003 | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| 中学校・高等学校教諭一種免許（保健体育）取得希望者は必修となる。 受講時の注意 <ul style="list-style-type: none"> メモをとる。メモには「テクニカルターム（術語）」「重要事項」「関連事項」「ひらめいたこと」である。 講義の内容については資料で確認する。どこで何を調べることができるかをしる、が重要である。 考える。自分なりの思考で構わない。大切なのはいつも自分が問いを発し、回答を用意することである。 | | | | | | | |

| 回 | テ ー マ | 授 業 の 内 容 | 予 習・復 習 |
|----|-----------------|-----------------|-----------------------------------|
| 1 | オリエンテーション | 本講義の目的、内容等の説明 | 予) シラバスを読む |
| 2 | スポーツ運動学の基礎 1 | 運動学の概念と目的 | 復) 講義内容について専門種目に当てはめて理解する。 |
| 3 | スポーツ運動学の基礎 2 | スポーツ運動学の研究対象と方法 | 復) 体育原理の研究方法について小レポートを作成する |
| 4 | 動作分析 1 | 動作分析とは何か | 予) 体育の現状批判について小レポートを作成する |
| 5 | 動作分析 2 | マット運動を例とした動作分析 | 予) 日本を中心に身体教育の歴史的展開について小レポートを作成する |
| 6 | 運動局面分析 1 | マット運動の局面分析 | 復) 体育論における教育概念について小レポートを作成する |
| 7 | 運動主体の感覚と指導法立案 1 | コツ、カンの言語化、指導法 | 復) 指導法立案 |
| 8 | 指導法の検証 | 現実に即した立案とは何か | 予) 指導法立案と発表 |
| 9 | スポーツ運動の課題 1 | 現実に即した立案とは何か | 復) 運動課題について専門種目に当てはめて理解する |
| 10 | スポーツ運動の課題 2 | 各種スポーツ運動の運動課題 | 復) 多種目の運動課題を示す |
| 11 | 動作分析 3 | 運動課題に沿った動作分析 | 予) 動作分析課題レポートを作成 |
| 12 | 動作分析 4 | 理想的運動とは何か | 予) 局面分析課題レポートを作成 |
| 13 | 運動局面分析 2 | 運動課題に沿った局面分析 | 予) 局面分析課題レポートを作成 |
| 14 | 運動主体の感覚と指導法立案 2 | 運動に沿った指導法 | 予) 指導法立案と発表 |
| 15 | まとめ | 講義全体のまとめ | 予) 指導法立案と発表 |
| 16 | 定期試験 | | |